

わが

住みよさで選ばれるまちづくり

天領文化に育まれた
農産物豊かなまち

中野市は、長野県の北東部に位置し、県都長野市からは鉄道で約40分で結ばれています。



ブドウの中でも人気のシャインマスカット

斑尾山まだらお、高社山こうしやなど象徴的な山々

を背景として、千曲川、夜間瀬川などが形成した河岸段丘や扇状地、穏やかな傾斜地に集落が発達しており、気温は年間差が大きく、夏季は30℃以上、冬季はマイナス10℃以下となる内陸性気候です。このような気候条件から、リンゴやブドウの栽培が盛んで、全国でも有数の品質と生産量を誇っています。また、早くからエノキタケの栽培に取り組み、キノコの施設栽培先進地としても知られています。

江戸時代には幕府の陣屋が置かれ、幕府直轄の「天領」が次第に拡大されていくと、政治、経済、文化、交通の中心となり、天領中野の名を高らしてきました。文化文政時代には、華やかな文化の花が開き、この地方にも中央から

の文化の流入が大きく浸透してきました。江戸から文人たちの来訪も多く、地元での地方文化を支えている人との交流により、文化が隆盛しました。このように北信州の中心として栄えてきたことは、人・物・情報を集め、豊かな自然とも相まって、伝統や文化を育む風土を形成し、現在に至るまで、多くの文化人を輩出してきました。

ちようどいい田舎

♪ 兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川 夢は今も巡りて 忘れがたき故郷♪

誰もが知っている唱歌「故郷」ふるさと。本市には、歌詞にある豊かな自然、美しい山々、日本のふるさとの原風景が今も広がっています。一方で、市街地にはスーパーやホームセンターなど大規模店舗や

病院も多く、上信越自動車道の二つのインターチェンジや北陸新幹線駅にも近いいため、首都圏とのアクセスが優れています。田舎ながらも生活に不便がない、田舎過ぎない「ちようどいい田舎」がここにあります。

本市では、農作業や農村暮らしを体験していただくツアーなどを随時開催しています。また、住宅メーカーとの協定により、本年10月から市内にあるモデルハウス1



唱歌「故郷」に歌われるふるさとの原風景

棟を移住希望者や、市外からの就農希望者の宿泊体験用に、無償で活用できるようにしました。「働く」「暮らす」を体験していただき、ちょうどいい田舎への移住を促進しています。

音楽に包まれるまち

本市は、誰もが知る童謡・唱歌を生んだ2人の偉人の出身地です。作曲家の中山晋平は、松井須磨子が歌い大ヒットした「カチューシャの唄」をはじめ、「ゴンドラの唄」や「シャボン玉」「東京音頭」など流行歌から童謡、新民謡まで幅広いジャンルの作曲を手掛けました。

国文学者の高野辰之は、「故郷」「朧月夜」「春の小川」「紅葉」など、美しい日本の原風景が浮かぶ唱歌を多く生み出しました。

また現代では、映画「風の谷のナウシカ」をはじめ映画音楽の第一人者として名高い久石譲さんも本市の出身で、久石譲さんを父に持ち、歌手・作詞家として活躍している麻衣さんには、中野市音楽親善アンバサダーとして、中野市イメージソング「空みあげて」の制作・発信に携わっていただい

います。

そんな音楽にゆかりの深い本市では、「信州なかの音楽祭」と銘打ち、「市民参加型」「若手育成」「多様な音楽を楽しむ」をコンセプトに、毎年10月から11月にかけて、市内各所で演奏会や手作りコンサート、バンドコンテストなどさまざまな音楽イベントが開催され、市内一円が音楽に包まれます。



市内各所で行われる手作りコンサート

健康長寿のまち

本市は、昭和53年からの長きにわたり、故日野原重明先生（聖路加国際大学名誉理事長などを歴任・

平成29年逝去）に健康づくりに関するご指導をいただきました。市民の健康増進を図ってきました。先生が本市に残された、数々の健康に関わる事業や取り組みにより、新市誕生10周年となった平成27年には、誰もが生き生きと暮らすことができるよう、市民と行政が一体となり「健康長寿のまち」を目指すことを宣言しました。

クなどを受けたり、健康まつりや健康づくりフェスティバルなどの健康に関するイベントに参加したりすることによりポイントが貯まるもので、市民の健康づくりへの意識向上、生活習慣の改善、運動習慣の定着が期待できると考えています。これからは、健康で長生きができる「健康寿命」を延ばすことが重要です。健康寿命の延伸を目標に掲げて、各種事業に取り組んでいます。

プロフィール

- ◆ 面積 112・18 km²
- ◆ 人口 4万4323人
- ◆ 世帯数 1万7223世帯

〔将来都市像〕緑豊かなふるさと文化が香る元気なまち

〔まちの特徴〕住みよさランキングで選ばれる「ちょうどいい田舎」

〔市町村合併〕平成17年4月1日、中野市・豊田村が合併



中野市長
池田 茂



〔特産品〕ブドウ、リンゴ、エノキタケ、シャクヤク、味噌、日本酒、郷土玩具土人形

〔観光〕一本木公園、中野陣屋・県庁記念館、日本土人形資料館、中山晋平記念館、高野辰之記念館

〔イベント〕中野ひな市、信州なかのバラまつり、中野シヨ、シヨ、シヨまつり、中野祇園祭、信州中野おこっそフェア、中野えびす講

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

元気な加須市づくりに向けて 「新たな挑戦」

利根川に育まれた都市

加須市は、埼玉県の東北部、関東平野のほぼ中央に位置し、坂東太郎の異名を持つ流域面積日本一の利根川が市内を流れ、また、ラムサール条約登録の渡良瀬遊水地を有する豊かな自然が広がるまちです。



平地にある三県境

利根川が運んだ土砂の堆積により形成されたという平坦な地形と肥沃な土壌、さらには幾重にも流れる中小河川による水に恵まれた穀倉地帯であり、埼玉県内一の米どころです。

利根川は、かつて交通機関としての役割を果たし、主に北埼玉地方で生産された米や麦、青糎あおじまなどが東京に運ばれるなど、舟運で栄え、人が行き交い、にぎわいを見せました。

また、本市は、全国有数の生産量を誇る「こいのぼり」や本格的な「手打ちうどん」のまちでもあり、毎年5月3日に利根川河川敷で行われる、100mのジャンボこいのぼりの遊泳には、市内外から多くの観光客にお越しいただいております。

これらの古き良き歴史、水と緑

あふれる農村地域と都市機能が集積する市街地との調和が本市の地域特性です。

さんぽで三県！三県境

本市には、栃木県栃木市、群馬県板倉町と本市にまたがる全国的にも大変珍しい平地の三県境があります。かつて渡良瀬川の中に位置していた三県境ですが、明治時代から大正時代にかけての渡良瀬川の改修により、現在の河道に変わったことよって埋め立てられ、今の姿となりました。

栃木市、板倉町と共同で三県境へのアプローチ道路を整備したことから、今後、新たな観光スポットとして広く発信していきます。三県を3歩で旅する「さんぽで三県！三県境」に、散歩がてら、ぜひお越しください。

合併10周年を迎えて

令和元年度は、合併から10周年の節目の年となります。

この間、合併のメリットを生かした全国トップレベルの行政サービスを目指してまいりましたが、おおむね順調に市政運営ができております。

また、郷土愛の醸成を図るため、年間を通して合併10周年記念事業を実施していますが、将来を見据え、この10周年を新たな始まりと捉え、本市が直面する課題の解決に向けて、新たな挑戦を開始し、日々チャレンジしてまいります。

住んでみたい 住み続けたい 安心・安全・快適な加須の実現

本市では、「住んでみたい 住み続けたい 安心・安全・快適な加須」の実現を目指し、五つに大別される具体的施策に取り組んでいます。まず、「安心・安全な暮らしを守る」では、中核病院の整備など、



利根川上空を遊泳するジャンボこいのぼり

地域医療体制の充実を最優先に取り組んでまいります。併せて、長寿化に対応し、地域で高齢者を見守り、支え合う仕組みづくり、健康寿命の延伸など、総合的に高齢者を支援してまいります。

また、地勢的に災害が少ない地域ですが、過去に大きな水害を引き起こしている利根川・渡良瀬川の堤防強化など、治水対策を促進し、安心・安全の確保に取り組みます。

次に、「日本一子どもを産み育てやすいまちをつくる」では、出

会いから結婚、妊娠、出産、子育てまでを支援する「すくすく子育て相談室（加須版ネウボラ）」を整備し、連続性のある子育て支援に取り組みます。そして、仕事と家庭の両立を支援するため、待機児童ゼロを維持しながら保育所や学童保育室の整備・充実を進めてまいります。

次に、「時代に合った地域をつくる」では、老朽化が進む学校施設の大規模改修などを計画的に進めるほか、ごみの資源化などについては、高いリサイクル率（埼玉県内1位、全国5位）を維持し、日本一のリサイクルのまちづくりに取り組みます。

次に、「雇用を創出する」では、雇用なくして定住なし、の考え方の下、働く世代の定着化や転入促進のため、高速道路を利用しやすい本市の利点を生かした産業団地の整備により、積極的に企業を誘致し、市内に雇用の場を確保します。

また、労働人口の減少が懸念される中、高齢者や女性の頑張りを期待し、就業を後押ししてまいります。

最後に、「新しい人の流れをつくる」では、2020年東京オリ

ンピック・パラリンピック競技大会におけるコロナピア共和国のホストタウンとして、事前キャンプの受け入れや選手団との交流を予定しています。さらに、スポーツクライミングや女子硬式野球においては、本市で全国規模の大会が開催され、選手や関係者が多く訪れることから、スポーツの盛んなまち「加須」を発信するため、シテイプロモーションに力を入れ

プロフィール

- ◆ 面積 133.30 km²
- ◆ 人口 11万3069人
- ◆ 世帯数 4万7370世帯

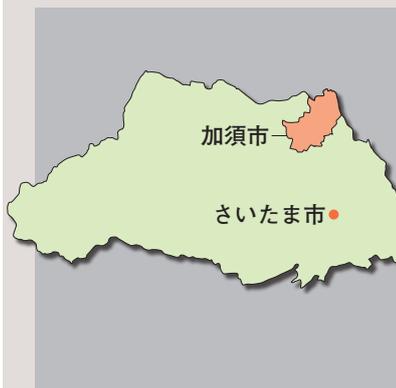
〔将来都市像〕水と緑と文化の調和した元気都市 かぞ

〔まちの特徴〕見渡す限りの平野と歴史ある建物や祭事など、自然豊かで文化的なまち

〔市町村合併〕平成22年3月23日、加須市、騎西町、北川辺町、大利根町による新設合併



加須市長
大橋良一



〔特産品〕米、トマト、きゅうり、なす、手打ちうどん、五家宝、いがまんじゅう、剣道具、野球ボール

〔観光〕渡良瀬遊水地、三県境、浮野の里、不動ヶ岡不動尊、玉敷神社

〔イベント〕加須市民平和祭、騎西藤祭り、かぞ どんとこい！祭り、渡良瀬遊水地まつり in KAZO、加須こいのぼりマラソン大会

てまいります。

今後においても、本市が持つ魅力を最大限生かしながら、市民の皆さまが、「加須市民でよかった」「住んでよかった」と思えるよう、時代の変化に対応してまいります。そして、最大の課題ともいえる少子化の進行に伴う人口の減少、長寿化の進展への対応に向けた強い決意の下、元氣な加須市づくりをまい進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「誇りを持って暮らせるまち三木」の実現に向けて 新たな時代へ、新たな三木づくり

市制施行から65周年

三木市は、兵庫県中南部に位置し、古い歴史と豊かな自然に恵まれたまちです。

昭和29年に市制を施行し、平成17年の吉川町との合併を経て、本年、65周年の節目の年を迎えました。

兵庫県は日本一の酒米の生産量と品種を誇りますが、本市はその



伝統に培われた品質、性能の高さに定評がある三木金物製品

中でとりわけ最高級の酒米「山田錦」の日本一の産地として知られるほか、古くから金物のまちとして栄え、大工道具を中心とした一大産地でもあります。また、高速道路網の整備により、良好なアクセスを生かし、神



鍛冶の伝統技術を伝える「金物古式鍛錬」

戸や大阪などの都市部への交通の便にも恵まれています。

本市では、まちの活力を維持していくため、将来的な人口減少と高齢化に対応した、市民が快適に暮らせるまちづくりを推進し、人口減少の緩和を図る施策に取り組んでいます。

誇れる教育

誰もが学び続ける環境のまちを

実現するため、学校教育において、全ての小・中・特別支援学校にタブレット型パソコンを導入し、「新たな学び」を開始しました。校外学習や班別学習の場面では、写真や図や絵を用いるなど、「楽しく」「どこでも」「みんなで」「分かりやすい」学習環境が整いました。

また、地域固有の歴史や文化などを学び、子どもたちが大人になっても「ふるさと三木」を愛する教育を推奨しています。本市吉川町出身で「日本経済新聞」の題字を手掛けた上田桑鳩先生は、書に生きることを志し、墨による線と余白を生かした前衛書を芸術の域まで昇華しました。現在も桑鳩先生を称え、「みなぎの書道展」を開催し、子どもたちに書による創作意欲の向上と、墨華の香るまちづくりを継続しています。

就学前教育においては、国に先駆け、平成25年度から保育料の段階的無償化を実施しています。平成29年度からは、3歳から5歳児の保育料は無償、0歳から2歳児は50%の軽減をいずれも所得制限なしで実施し、民間認定こども園などとも協力しながら、待機児童を出さない取り組みを行っています。さらに、給食の副食費についても市独自で補助を行うなど、子育て世代を応援しています。

防災のまち

兵庫県の防災拠点「兵庫県広域防災センター」を抱える本市は、元来、災害の少ないまちですが、平成30年に発生した豪雨、台風など、想定を超えた災害を教訓に、災害時の情報共有を強化するため、自治体専用のネットワークが備えられていない学校などの避難所に、タブレット型パソコンを配置しました。ラジオやテレビだけでは地域の災害情報などを十分に把握するのが難しい状況でしたが、

この配置により、どの避難所でも必要な情報が得やすくなりました。

また、市民の防災意識が非常に高く、地域単位での自主防災訓練も盛んなまちです。平成29年度以降、累計612名の学生防災士を輩出している、市内にある関西国際大学と連携し、より実践的な防災訓練を提唱するとともに、学生などにも取り組み、さらなる体制強化を図っています。

スポーツ振興

本年4月から本格化している、世界規模のスポーツイベントが集まるゴールデン・スポーツツィヤーズを絶好の機会と捉え、テニスでは国際的規模の大会が開催さ



山田錦について学べるミュージアムなどを備えた「山田錦の館」

れる「ブルボンビーンズドーム」馬術では多くの国内大会が開催される「三木ホースランドパーク」をはじめ、サッカー、陸上競技などの充実した施設を地域資源とし、大いに活用する施策にも取り組んでいます。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、フランス陸上競技チーム、ネパールテコンドーチームのホストタウンに登録されました。本年度、事前合宿の受け入れや代表選手との交流イベントを開催しましたが、競技を通じて世界の一流選手と触れ合うことにより、子どもたちの大きな財産となりました。

また市内には25カ所のゴルフ場があり、西日本一の数を誇っています。自然と一体となった魅力的なコースが多く、毎年プロ選手のトーナメントツアーが開催されます。本年度は5大会のトーナメントが開催され、多くのギャラリー



山田錦を使用した三木の地酒

が訪れています。「ゴルフのまち三木」をPRするとともに、ゴルフ場の利用促進による地域活性化やジュニア育成事業に取り組み、ゴルフ人口の増加を図っています。

インバウンド戦略

近年、増加傾向が続く訪日外国人観光客が望む「体験」に焦点を当て、ゴルフ、酒米「山田錦」の生産地の訪問、風土に触れるテロワー

ル体験、モノづくりとしての金物製造体験など、ニーズに合わせた体験ツアーによって地域資源をつなぐインバウンドを推進するとともに、さらなる相乗効果を得るため、県と市の協調に加え、近隣市町とも共存共栄すべく、圏域による地域連携を進めていきます。今後も誰もが暮らしに誇りが持てる、魅力あるまちづくりに向けて、まい進してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 176.51 km²
- ◆ 人口 7万7291人
- ◆ 世帯数 3万3859世帯

〔将来都市像〕 誇りを持って暮らせるまち三木

〔まちの特徴〕 古くから金物のまちとして知られ、市域を山陽・中国・舞鶴若狭自動車道が通過する交通の要衝地であり、防災に優れた歴史と文化、緑あふれる田園都市

〔市町村合併〕 平成17年10月24日、吉



三木市長
仲田一彦



川町と合併
〔特産品〕 三木金物、酒米「山田錦」、ブドウ

〔観光〕 三木ホースランドパーク、金物資料館、山田錦の館、吉川温泉「よかたん」、三木山森林公園、道の駅みぎ
〔イベント〕 三木金物まつり、みっきい夏まつり、みっきいふれあいマラソン、山田錦まつり、別所公春まつり、三木市レディースゴルフトーナメント

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「住み続けたい」を実感できる まちづくり

市民のおもてなしで創り上げた日本屈指の体験型教育旅行のまち

松浦市は長崎県の北部、波静かな伊万里湾とアジアにつながる玄界灘に面し、訪れた人々を魅了する美しい景色に抱かれた風光明媚



松浦の魅力に触れて過ごす「体験型旅行事業」

なまちです。市民はおもてなしの心に溢れ、平成15年から始まった体験型修学旅行事業では毎年約3万人が本市を訪れ、これまでに30万人以上の中高生を受け入れ、全国屈指の体験型教育旅行受け入れのまちとなっています。学生たちは、本物の農業、漁業などの体験プログラムを通して、都会では味わえない貴重な経験を得るとともに、農漁村に民泊して本当の家族のような時間を過ごし、帰り際には涙を流して別れを惜しむなど、大きな教育効果を上げています。その魅力を高め、体験プログラムの主要な受け皿となっている農水産業では、メロン、ブドウ、アスパラガスなどの農産物から、アジ、サバ、トラフグ、クルマエビなどの水産物まで、安全でおいしい食材を数多く生産・水揚げして

おり、いずれも市場で高い評価を頂いています。

「アジフライの聖地 松浦」を宣言

公設松浦魚市場には、松浦沖の五島・対馬海域で漁獲されたアジ・サバを中心に豊富な水産物が水揚げされ、特にマアジの水揚げ量は常に全国トップクラス。近年では3年連続で、日本一の水揚げ量を



アジも形も百花繚乱「アジフライの聖地 松浦」

誇っています。これをまちづくりを生かすべく、私が市長に就任する際に掲げたのが「アジフライの聖地を目指す」という取り組みです。日本一の称号がありながら、一般にはほとんど知られていなかったため、刺し身で食べられる新鮮なアジをあえてフライにして、差別化を図ることを考えました。就任直後から担当課職員が市内100店舗以上を回って参加を呼び掛け、数カ月後には20店舗で、外はサクサク、中はフワフワ、臭みも全くない絶品アジフライの提供が始まりました。すると「アジフライの概念が変わる」と評判を呼び、さまざまなメディアに取り上げられ、本年4月27日、正式に「アジフライの聖地 松浦」を宣言しました。現在は提供店舗も30店を超え、週末には県内外からの多くのお客さまでにぎわいを見せています。今後もさらに磨きを掛け、全国に「アジフライの聖地」を発信していきたいと考えています。

次世代に豊かな自然と 農水産業を引き継ぐために 「木育」を推進

本市の地形は山と海に挟まれており、山から湧き出た豊かな水が農地を潤し、目の前に広がる伊万里湾に流れ込んで、本市の基幹産業の一つである農水産業を支えています。しかし、近年では森林の荒廃が進み、将来にわたってその豊かな水を確保するためには、次世代を担う子どもたちに森林の大切さを伝え、育むことが必要だと考えています。そこで、本市で生まれ育つ子どもたちの環境に木材



棚田百選にも認定された土谷棚田で行われる火祭り

を取り入れ、木に触れ合いながらその素晴らしさを五感で学び、将来、森林や自然を大切に考え行動できる「人」を育てるために「木育」を推進しています。「NPO法人芸術と遊び創造協会」の指導の下、本年度中に長崎県内では初となるウッドスタート宣言を行い、赤ちゃんの誕生祝いに松浦産の木を使ったおもちゃをプレゼントすることとしています。

幅広い市民の意見を集めて 次期総合計画を策定中

2040年問題が提起される中、本市では、迫り来る人口減少社会への対応を見据え、市民とともに未来を創るための「公共計画」として、次期総合計画の策定に取り組んでいます。

第一段階として、市民が自分たちのまちの将来について語り合うワークショップ「松浦未来会議」を設置し、高校生以上の市民の中から無作為抽出した2千人に郵送で意向調査を行い、参加の意思が示された89人と、全戸配布のチラシで公募した42人、計1331人の高校生から高齢者までが委員となつて計4回、延べ320人がさ

まざまな意見を述べ合いました。第二段階では、市内の各小学校区8カ所で市民の自由参加による「地域版未来会議」、子育てサークルや商工会議所、保育園や小学校などを直接訪問しての聞き取り調査「まちなかインタビュー」などを通して幅広い意見を集めました。現在、松浦未来会議の中心メンバーと各界各層の代表者によって

構成された総合計画審議会で、令和2年3月の市議会提案を目指して詰め協議が行われています。次期総合計画は、手に取って読みやすい形式にして全戸配布を行うこととしており、市民とともに創り上げたこの計画を基に、人口減少という危機に立ち向かい、持続可能なまちづくりを進めていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 130・38 km²
- ◆ 人口 2万2645人
- ◆ 世帯数 1万202世帯

〔将来都市像〕住みたい 住み続けた いまち

〔まちの特徴〕トラフグ養殖生産量日本一、アジ・サバの水揚げ量は日本有数の誇り。元寇終焉の地（鷹島沖で元の軍船が発見され、日本初の海底遺跡として国史跡に指定）。

〔市町村合併〕平成18年1月1日松浦市、福島町、鷹島町により合併



松浦市長
友田吉泰



〔特産品〕トラフグ、アジ、サバ、クロマグロ、クルマエビ、メロン、ブドウ、アジフライ

〔観光〕不老山総合公園、土谷棚田、いろは島、松浦市埋蔵文化財センター（元寇遺物）、体験型観光

〔イベント〕不老山花と光のフェスタ、土谷棚田の火祭り、松浦水軍まつり、鷹島モンゴルまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。